どんなときも、医師のそばに。ずっと、医師会。

勤務医のつどい journal

vol.72

2026. 3. 31

公益社団法人福岡県医師会勤務医部会
福岡市博多区博多駅南2-9-30

WEBでも配信中！

若手医師のワーキンググループ発足！

今回は、若手医師の声を医師会活動に反映するとともに医師会活動へ接する機会とするため「福岡県医師会勤務医部会委員会」のもとに設置した若手医師のワーキンググループ（以下、「WG」）の取組み並びに、福岡県医師会が九州各県医師会相互間で必要な連絡協議を行う「九州医師会連合会」（以下、「九医連」）の担当県となり開催した「勤務医連絡協議会」についてまとめた。

また、岩手県で開催された「全国医師会勤務医部会連絡協議会」について報告する。

勤務医部会委員会WG

未来を支える若手医師たちがやりがいを持って働き続けられるよう、交流を通じて共に未来の医療を考えていくため、「勤務医の医師会活動への参画推進」の具体策として、若手勤務医の声を吸い上げ、積極的な参加を促すことを目的に、福岡県医師会勤務医部会委員会のもと、新たに若手医師のWGを設置した。

本WGは、世代や役職による視点の違いを考慮し、以下の２つのグループとし、大学や公的・民間病院、行政等様々な組織に属するメンバーで構成し、多角的な視点から議論が行われた。

▶WG A

概ね 40 ～ 55 歳の部長や医長等の医師

▶WG B

概ね 20 ～ 30 代までの医師

WGでは、「テーマに基づく協議」、「勤務医支援の取組みの企画・実行」の２本を柱に進めることとし、メンバーの自主性を尊重して各グループでテーマを設定、取組みを検討した。

第１回は、A・B合同で開催し、一宮副会長が「持続可能な医療制度が求められる中、次代を担う皆さんが積極的に考え、医師会と共に行動しよう」と熱いメッセージを送った。その後、グループに分かれ、WG Aでは「病院経営を揺るがす構造変化」、WG Bでは「若手医師」をテーマに担当役員よりオリエンテーションを行った。今期は、全３回の会議を予定しており、各グループで上述の２本柱について、ハイブリッド会議・SNSで検討を重ね、検討内容の整理を行いながら、勤務医部会委員会へ最終報告を行うこととした。

福岡県医師会 一宮 副会長

福岡県医師会 戸次 常任理事

福岡県医師会勤務医部会委員会WGの設置

1. 目　　的

勤務医の地域医療への理解醸成と勤務医支援の充実を図り、勤務環境の向上、福祉増進並びに勤務医相互の親睦を図ることを目的として、福岡県医師会勤務医部会委員会（以下、「委員会」）の下にWGを設置する。

2. 組　　織

WGは、以下の区分により設置する。

1）概ね 40 ～ 55 歳の部長や医長等の医師で構成するWG（「WG A」）
2）概ね 20 ～ 30 代までの医師で構成するWG（「WG B」）

3. 構　　成

両WGともに、次に掲げるものをもってそれぞれ構成する。

（1）委員会委員長が推薦する者（1名）
（2）ブロック代表委員が推薦する者（4名）
（3）大学代表委員が推薦する者（4名）
（4）他、委員が推薦する者
（5）他、福岡県医師会長が推薦する者

4. 事業内容

（1）勤務医に関する事項について、福岡県医師会長の諮問に対する答申及び建議
（2）地域医療の進展に寄与するための調査研究
（3）勤務医と開業医の意志疎通及び医療連携の確立に関する事項
（4）医師の生涯研修充実のための事項
（5）勤務医の福祉増進に関する事項
（6）勤務医相互の情報交換及び親睦に関する事項
（7）未入会勤務医の入会促進に関する事項
（8）その他目的達成上必要な事項

5. その他

（1）任期は、２年とする。
（2）その他事項については福岡県医師会委員会規定に順ずる。

WG A「FMA48」

第２回会議では、ＷＧの配役（進行役：三好委員、副進行役：成田委員、書記役：的場委員）を決定後、三好委員の進行により、「協議テーマ」の検討に移った。協議テーマは、事前に各委員へ意見照会を行っており、出された意見をもとに検討を進めた。

主に、勤務医と医師会それぞれの立場や背景、実情（医師会が地域医療の維持に向けて勤務医に期待する役割と勤務医が医師会に求める支援や連携のあり方）等について幅広い議論を行った。双方にとっての参加メリットや組織の存在意義についても検討が深められた。

テーマは、「**勤務医の医師会会員を増やす方法**」、「**勤務医と開業医を医師会でどのように繋いでいくか**」、「**地域医療格差**」「**混合診療**」の４案に絞られ、その中から「**勤務医の医師会会員を増やす方法**」に決定した。

その後、ＳＮＳを利用し会議外でも随時情報共有や具体策について意見を交わし、論点の補足や提案が活発に行われた。第３回会議では、名称を「ＦＭＡ４８」（福岡県医師会の略称と委員の平均年齢から）に決めるとともに、とりまとめの方向性を確認し、懇談会にて飛野委員から発表することとした。

氏　名	所　属	役　職
三好　　圭	福岡赤十字病院 第二呼吸器外科	部　長
片岡　雅晴	産業医科大学 第２内科学	教　授
松島　将士	九州大学病院 循環器内科	講　師
田中　俊裕	福岡大学病院 腫瘍・血液・感染症内科	准教授
髙瀬谷　徹	久留米大学病院 心臓血管外科	准教授
的場　ゆか	JCHO 九州病院 内分泌代謝内科	診療部長
小野　伸之	福岡市民病院 リウマチ・膠原病内科	科　長
飛野　和則	飯塚病院 呼吸器内科	部長・副院長
岩田　慎平	公立八女総合病院 内分泌代謝内科	医　長
日浦　政明	芦屋中央病院 内科、肝臓内科	医務局長
戸次　鎮宗	原鶴温泉病院 内科	部　長
志岐　精治	原土井病院 リハビリテーション科	主任部長
亀井　英樹	JCHO 久留米総合病院 一般外科 / 消化器外科	外科部長・副院長
吉田まり子	福岡県南筑後保健福祉環境事務所	―
金城　和寿	浜の町病院 乳腺内分泌外科	医　長
成田　純任	浜の町病院 救急センター	救急部長
寺坂　喜子	てらさか内科・外科クリニック	副院長

病院経営を揺るがす四つの構造変化

病床利用率低下からインフレ進行まで

元日本医師会総合政策研究機構　副所長
福岡県医師会　常任理事
原　祐一

WG B「医師会プレゼンツ 若手医師の勤務医交流会 ～気軽にＪｏｉｎ！～」

第２回会議では、配役（進行役：福嶋委員、副進行役：吉野委員、書記役：二宮委員）を決定後、福嶋委員の進行により、「勤務医支援の取組み」の検討に移った。

事前照会では、「勤務環境改善」「下り搬送の普及」「マネジメント・ビジネススキル習得支援」「キャリア形成支援」「資産形成セミナー」「他医局や開業医との交流会」の提案があった。対象として「研修医等や医学部６年生」「30 ～ 40 代の働き盛りの医師」の２案があがり、まずは「**医師会活動の可視化**」「**若手医師との接点づくり**」を図るものとして「**研修医を対象とした若手医師の交流会**」の開催が決定した。その後、ＳＮＳで交流会の内容について意見を交わし、第３回会議でＷＧ及び交流会の名称を「医師会プレゼンツ 若手医師の勤務医交流会 ～気軽にＪｏｉｎ！～」に決めるとともに、勤務医部会との懇談会（2/20）では、牟田委員が資料作成、大原委員が発表すること、若手医師の勤務医交流会（3/13）では「医師会活動」「ＷＧ」について報告することとした。

氏　名	所　属	役　職
岡田　祐汰	福岡赤十字病院 外科	―
吉松　克真	産業医科大学 第２外科	助　教
吉野伸一郎	九州大学病院 血管外科	助　教
若松　佳代	福岡大学医学部 心臓血管外科 / 再生移植医学	助手 / 大学院生
田仲　洋平	久留米大学病院 内分泌代謝内科	助　教
今津　直紀	北九州総合病院 消化器内科	―
大原　朋也	福岡市民病院	研修医
山端　裕貴	飯塚病院 連携医療・緩和ケア科	医長代理
牟田　侑世	大牟田市立病院	研修医
下河邉久陽	戸畑共立病院 救急総合診療部	医　長
福嶋恒一郎	九州大学病院 産婦人科	医　員
原　　龍佑	九州医療センター	研修医
立石　凌大	九州医療センター	研修医
二宮　　駿	福岡大学病院 救命救急センター	助　手

勤務医ワーキンググループ
「若手医師」

担当：田中　眞紀、櫻井　俊弘

福岡県医師会勤務医部会委員会・WG合同懇談会（2月20日）

各WGで議論の報告と両委員の交流の場として合同懇談会を開催した。始めに、勤務医部会委員会中房委員長より「若手の勤務医をはじめそれぞれの年代が求めることが異なり、どのように考えているかを、我々が知ることで、今後の医師会活動に生かしていきたい」と挨拶された。その後、WG Ａ・Ｂの取組み報告を行い、懇談を行った。

WG Ａの報告では、「**勤務医会員を増やす『３つの提言』**」と題し、現状と課題に基づく「**会費を下げる**」「**価値を上げる**」「**手続きを無くす**」ための具体策が提案された。日本医師会のみの単独加入やライトプランなど選択肢の拡大、就職やバイト情報など実利的な支援ツールの提供、異動しても継続しやすいワンストップＩＤ制度の整備が提言された。勤務医にとって会費への投資に見合うメリットを明確化し若手医師のインサイトに応え、「選ばれる組織」への転換が必須であると示された。

WG Ｂの報告では、「若手勤務医の参画促進」を目的とする取組案の中から「若手医師の交流会」に決定するまでの過程とその開催予定について報告された。「若手医師の参画促進」をテーマに、課題として「**医師会活動の可視化不足**」「**キャリア・勤務環境支援の必要性**」「**若手医師との接点不足**」を上げ、取組みの方向性を「**交流づくり**」「**医師会活動の可視化**」「**キャリア支援**」「**働き方への関与**」等に整理し、交流づくりとして交流会を開催することとした。距離の近い若手の医師自身が企画・開催することで、楽な気持ちで参加してもらえる。これが、ひいては、医師会活動への参画ハードルを下げることに繋がるだろうと期待している。

地域や年代、性別、職位など、様々な環境の中で活動する先生方が集まっての懇談であったが、「人々の命と健康を守る」という純粋な願いを持つ者同士で会話が弾み、実り多い懇談となった。

WG Ａ 飛野委員

福岡県医師会勤務医部会委員会 中房委員長

WG Ｂ 大原委員

福岡県医師会勤務医部会委員会 平川副委員長

WG Ｂ主催「医師会プレゼンツ 若手医師の勤務医交流会～気軽にＪｏｉｎ～」（3月13日）

前述のとおり、WG Ｂ主催で研修医を対象とした交流会をＢｉｌｌｓ福岡（福岡市）で開催した。県内の医療機関からWG委員の他に研修医 13 名が参加した。大原委員の司会により、原委員の開会挨拶の後、若松委員から「医師会について」、牟田委員から「WGについて」報告後、参加者で交流を深め、最後に立石委員からの閉会の言葉で終了した。

当初、参加者は本交流会の目的や趣旨を把握していない様子も見受けられたが、交流会を通じて医師会の役割や活動への理解が進み、積極的な意見交換が行われた。若手医師に対する医師会の認知向上と今後の参加促進に向けた課題共有の機会として一定の成果が得られたものと考える。

九州医師会連合会 勤務医連絡協議会

九医連 第1回勤務医連絡協議会（9月27日）

勤務医や若手医師の医師会参画、大学医学部との連携を通じた医師会組織の強化を目的に各県の好事例の共有や日本医師会への提言を行うものとして、グランドハイアット福岡で「第１回九州医師会連合会勤務医連絡協議会」を開催した。冒頭、本会蓮澤会長は医師の約８割が勤務医である現状に触れ、「将来を担う医師が希望を持ち、安心して医療を提供できる環境整備に向けた若手医師へのポジティブアクションが不可欠である」と挨拶した。

協議では、若手役員の登用や、若手医師が医療の未来を語り合う場の設置等の先進的な取組みが報告されるとともに、大学関係者からは専攻医確保の難しさや大学病院の苦境などが語られ、大学と医師会が協同して課題解決にあたる重要性が再確認された。

日医藤原常任理事は「自らが医療の仕組みづくりに関われることこそ、医師会員になる最大のメリット」と総括した。

九医連 第2回勤務医連絡協議会～勤務医交流会～（2月14日）

（テーマ）

① 勤務医の医師会活動への参画
～勤務医が望む医師会活動とは？～

② 働き方改革は君たちにとってどうなの？
～若手医師の本音～

グランドハイアット福岡にて「第２回九州医師会連合会勤務医連絡協議会」を開催した。第２回は、医学生から役員までが立場を越え、現場の課題や医療政策について率直な意見交換を行うことを目的に、九医連で初めて、交流会形式で開催した。冒頭、蓮澤会長は「交わされた多様な『現場の声』を日本医師会へ届け、将来を担う医師が安心して医療を提供できる未来へ繋げたい」と挨拶した。各県からの管理者･部長、中堅医師･指導医、専攻医・研修医、医学生で４つのグループを作り、「①勤務医の医師会活動への参画～勤務医が望む医師会活動とは？～」及び「②働き方改革は君たちにとってどうなの？～若手医師の本音～」について各２グループずつ意見交換した。

「医師会活動への参画」では、若手医師の心理的ハードルを下げるため、ＳＮＳ発信や手続きのオンライン化､研修プログラムへの活動組込み等が提案された｡「働き方改革」では、「十分な休みと経験の蓄積を両立させたい若手の本音」や「上級医への負担集中」といった課題が浮き彫りとなり、タスクシフトや当直の輪番制、労働意向の事前申請が解決策として提案された。

一宮副会長は総括として、ＷＧ設置等の本会の取組みを通じた、若手医師の参画の重要性を述べ、また、来賓の日医今村常任理事は、「医療制度を持続させるため、医師一人ひとりが当事者意識を持ち医療政策を考える必要がある」と強調された。

全国医師会勤務医部会連絡協議会

詳細は
日医ニュースから！

令和7年度協議会、勤務医交流会（11月8，9日）@ 岩手

岩手県盛岡市にて「全国医師会勤務医部会連絡協議会」及び「勤務医交流会」が開催された。「勤務医が生き生きと活躍できる場を作る～混沌を成長の機会に～」をテーマに全国から多くの勤務医が集まった。

日医松本会長は､「勤務医の声を的確に反映し､支援策を一層充実させる」と力強く挨拶した。特別講演では､(株)南部美人の久慈社長が伝統と革新による挑戦を語り、国際医療福祉大の鈴木学長がポストコロナの強靭な医療体制について提言した。

続いて、日医勤務医委員長を務める本会一宮副会長が委員会報告として、働き方改革や勤務医の医師会参画に関する課題と、今後の答申に向けた方針を報告した。シンポジウムでは「人口減少時代に活躍する勤務医」のテーマによる４名の先生からの発表を踏まえ活発な討議が行われ、最後に満場一致で「いわて宣言」が採択された。

翌日の交流会では県や世代を越えた議論が行われた。岩手県の参加者からの「医師少数県でも悲観せず楽しく仕事をしている」という前向きな言葉が述べられた。